抗酸菌感受性試験における菌の発育不良による症例と解釈

○西口　育宏,伊藤　隆男,上本　裕,藤吉　章雄,楠　伸治,河岸　守
(株式会社シオノギバイオメディカルラボラトリーズ)

【はじめに】

抗酸菌の薬剤感受性試験は、適切な治療を行うために欠かすことができない重要な検査である。今回、我々はＰＺＡ液体培地（極東製薬）では菌の発育を認めるもののビットスペクトル－ＳＲ培地（極東製薬）では発育を認めなかった二症例を経験したのでその概要を報告する。

【患者背景と分離菌株の概要】

二例とも７８歳の男性である。他院で核酸増幅法により結核菌群陽性となったため、当ラボの受託元施設へ転院となり、培養検査で各々４週目に３０コロニー、５０コロニーが小川培地で分離された。一例目のコロニー性状は乳白色で典型的な結核菌に比べ小さくＲ型、Ｓ型の鑑別ができなかったが二例目のコロニー性状は白色、Ｒ型であった。当ラボには分離培地のまま出検され感受性検査が依頼された。

【感受性試験結果の経過】

小川培地上のコロニーを釣菌し、マイコブロス（極東製薬）に接種し３７℃で前培養を行った。１０日目にＭｃＦ１．０に増殖した培養液を蒸留水で希釈し、ビットスペクトル感受性培地の各ウェルに２０μｌ、ＰＺＡ感受性培地に１００μｌ接種し３７℃で培養した。ＰＺＡ感受性培地の対照培地には１４日後に生育を認めＰＺＡ感受性と判定したが、ビットスペクトル培地には３週後にも発育を認めなかったため、検査を打ち切った。
被検菌がMycobacterium tuberculosis complexであることは遺伝子検査で確認された。

【まとめ】

本例がビットスペクトル培地に生育しなかった原因を検討中である。現時点では液体培地による感受性試験の結果報告は可能であると予想されるため本例についてはバクテックＭＧＩＴ液体培地（日本ベクトン）を用いた感受性検査を実施中である。［連絡先：06-6319-2635］